美術科学習指導案

指導者　　永山　良子

日 時　平成 30 年 11 月 17 日（土）　第３校時（13：15～14：05）
年 組　中学校第２学年２組　計 40 名（男子 20 名，女子 20 名）
場 所　中学校美術教室
題 材　アートと語ろう　アートを語ろう

題材について

本題材は，美術作品を見つめ，仲間と作品について語り合うことを通して，作品に自分なりの価値を見出す活動を行うものである。美術鑑賞は，作品と自分が向き合い対話することを通して，対象に自分なりの価値を与える活動である。そこに「他者との対話」や「文脈（作品から直接捉えられない，作品にまつわる情報）の獲得」を加えることで，より深まりのある鑑賞へと発展させることができる。それは「他者との対話」や「文脈の獲得」が，自分とは異なる価値観や未知なる鑑賞の視点との出会いをもたらし，作品の見方・感じ方に「揺らぎ」を生じさせるためである。他者との対話によってもたらされた多様な価値や文脈を根拠としながら，作品についての思考を繰り返すことで，新たな価値を創造することができる。このような試行錯誤を伴う鑑賞の活動は，単純に美術を味わい楽しむ力を育むだけではなく，変化の激しい現代社会の中を生きていくために必要な思考力や創造力の育成にも繋がっている。

本題材で鑑賞作品として取り上げるのは，『太陽の塔』（1970，岡本太郎）である。『太陽の塔』は，大阪万博のテーマ館の一部として作られた建築物である。万博閉幕後に撤去される予定であったが永久保存されることとなり，パブリックアートとして今も公園の緑の中に在る。両腕を広げて立つ巨大な塔の表面には，３つの顔がある。何者とも捉えがたいその異形の造形は鑑賞者の想像力をかきたて，自由にみることが保障される。作者岡本太郎は，「作品は完成した瞬間に作家のものではなくなり，みんなのものとなる」と語った。作品にどのような価値を据えるかは鑑賞者に大いに委ねられているのである。また，太郎は生涯，世の中や自分，芸術そのものに対して「挑戦」の姿勢で臨み続けた芸術家であった。作品鑑賞の過程で作者の意図に迫ろうとするとき，鑑賞者もまた「挑戦」の姿勢で作品に対峙することとなる。その結果，作品に対する既有の価値に揺らぎが生まれ，新たな価値の構築に向けて試行錯誤を繰り返すことになると考えられる。

本学級の生徒は，楽しみながら美術の学習に取り組むことができる。これまで授業や夏休み課題の美術展鑑賞などを通して，様々な作品と出会う機会をもってきた。その中で，形や色などの造形要素を根拠に，作者の意図や作品のテーマなどを自分なりに読み取ることができるようになってきている。グループやペアなど小集団での意見交流には積極的であるが，学級全体の中で自分の意見を表明することには消極的な生徒が多く，自分なりの見方に自信をもてない様子が窺える。また，教科書や資料集に鑑賞作品の解説文を探そうとする生徒が見られる。これには，作品の見方の「正解」を手っ取り早く掴もうとしている場合と，より深く作品を味わうための「文脈」を掴もうと知的好奇心を働かせている場合があると考えられる。

指導にあたっては，価値の構築とその揺らぎが繰り返し起こるよう，構成に留意しながら様々な鑑賞の方法を活用する。導入場面では対話型鑑賞を行い，生徒に作品そのものと向き合い対話する場を与え，その後の鑑賞の手がかりとなる価値意識をもたせたい。展開場面ではワールドカフェ方式（メンバーの組合せを変えながら，４～５人単位の小グループで話し合う）でのグループトークを行わせ，自分の価値意識をもとにして多くの「他者との対話」をさせる。自分とは異なる価値に触れさせることで，作品に対する価値に揺らぎを与え，思考の連鎖を生み出したい。そして終末場面では，改めて作品と向き合い対話させていく。展開

場面で獲得した他者の価値観や文脈などを新たな価値づくりの根拠とさせ，自分なりの価値に深まりを生み出すことができるようにしたい。また，生徒の自由な発想や思考の連鎖を制限することなく，かつ知的好奇心に応えられるよう，文脈の提示はその内容やタイミングに細心の注意をはらって行うようにする。

指導目標

1．主体的に作品に向き合い，他者と意見を交わしながら，作品に対する自分なりの価値をつくりだそうとすることができるようにする。
2．造形的なよさ，作者の生き方などを総合的にとらえ，作品に対する自分の価値をつくることができるようにする。

指導計画（全１時間）

1．『太陽の塔』を鑑賞し，作品に対する自分の価値をつくりだす・・・　１時間（本時）

本時の目標

仲間と対話しながら『太陽の塔』の意味を探り，自分の言葉で語ることができる。

学びを豊かにするための手立て

自由な見方・感じ方がしやすく，文脈も豊かな『太陽の塔』を鑑賞作品として取り上げることが第一の手立てである。他者の多様な価値に触れ，自分の価値の揺らぎや深まりを生み出せるよう，ワールドカフェ方式の対話場面を設定していることが第二の手立てである。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
１．導入 □『太陽の塔』と出会う。	○レプリカを提示し，立体として作品を捉えさせる。
２．展開 □対話型鑑賞を行う。『太陽の塔』を見て，造形的な特徴や印象などを交流する。	○作品の造形要素（形，色など）や作品の印象（見て感じること）を問う。発言の根拠も述べるよう促す。 ○作品とその周囲の環境がわかる図版を提示し，場所と作品の関係を意識させる。身近な建築物を例に挙げ，その大きさをイメージさせる。
□本時の目標を確認する。	○『太陽の塔』とは何か，問いかける。
仲間と対話しながら『太陽の塔』の意味を探り，自分の言葉で語る	
	○ワールドカフェの進め方・ルールを確認させる。 ・テーマについて対話する。 ・話をよく聴き，否定しない。 ・ラウンドごとに，メンバーを入れ替える。

□ワールドカフェを行い，『太陽の塔』の意味について考える。 １回目…グループで対話しながら，『太陽の塔』の意味について考える。 グループを替える。 ２回目…１回目の対話について交流する。 グループで対話しながら，『太陽の塔』の意味について考える。 グループを替える。 ３回目…２回目の対話について交流する。 グループで対話しながら，『太陽の塔』の意味について考える。	○作品そのものからとらえた造形的特徴や印象，グループでの対話，与えられた文脈などを総合的に鑑みながら，『太陽の塔』がもつ意味を自分なりにつくりだすよう促す。 ○対話の滞るグループには，発言内容についての質問をしたり鑑賞の具体的な視点（３つの顔の意味など）を提示したりして，新たな思考の手がかりをつくる。 ○生徒の活動の実態に応じて，作品の文脈や鑑賞の視点を提示し，思考の揺らぎを生み出す。
３．まとめ □『太陽の塔』の自分なりの意味を考え，発表する。 □本時の学習を振り返り，『太陽の塔』に対する自身の価値の変容を見つめる。	◆他者と意見を交わしながら，作品に対する自分なりの価値をつくりだそうとしている。【美術への関心・意欲・態度】 ◆造形的なよさ，作者の生き方などを総合的にとらえ，作品に対する自分の価値をつくりだしている。【鑑賞の能力】